



「誰でも快適に働ける現場」の実現へ

重機 遠隔操作システム K-DIVE[®]

次世代を見据えた現場改善ソリューション。
重機の遠隔操作システムを運用し、働き方の概念を変革します。

安全面や人口減少などによる慢性的な人手不足に加え広大な北海道の資源リサイクル事業は、その「広さ」も働き手にとって大きな制約となります。

鈴木商会では、資源リサイクル事業の現場におけるこういった様々な課題解決に向け、コベルコ建機とともに北海道内では初めて「重機の遠隔操作システム実用化」に挑戦します。

まずはステップ1として、事務所内での重機遠隔操作によりオペレーターの安全確保と環境改善を実現。さらにステップ2では、現場から遠く離れた操縦室からの遠隔操作により、オペレーターの勤務地の制限も取り払った職場環境の実現を目指します。



鈴木商会の考えるK-DIVE[®]の活用ステップ

STEP-01

近距離での遠隔操作



ローカル無線通信環境を利用して現場内にある事務所からの遠隔操作

- ユーザー現場の環境に合わせたローカル無線通信を利用
- 解体業者のスクラップヤードなどの隣接現場の機械を現場事務所から遠隔操作
- ダッシュボード機能による稼働管理、施工進捗、工程管理、安全教育

STEP-02

遠距離での遠隔操作

光ファイバーケーブルを中心とした広域ネットワークを活用



その、つづきを。

リサイクルの現場で働く人の環境を 改革するテレワークシステム

K-DIVE®

資源リサイクル業は豊かな社会をつくるうえで欠かすことのできない存在であり、そこで働く人たちの環境もより良くしていきたいと考えています。

その実現に向けて私たちが目指すのは、働き方そのものを変え、あらゆる人へ仕事の可能性を広げる現場のテレワーク化です。



国土交通省が推進するi-Constructionを中心とした業界の流れの中で、コベルコ建機では「誰でも働ける現場へKOBELCO DX」をテーマにICTロードマップを策定し、これまでに数々のソリューションを提供してきました。

その柱のひとつが、遠隔操作システムと稼働データを用いた現場改善ソリューション「K-DIVE®」です。

この新たなソリューションによって、特定の人・場所・時間などの制約を受けずに資源リサイクル現場での施工が可能となり、より効率の高い作業ができることでコスト削減や生産性アップ、現場省人化による本質的な安全確保などの効果をもたらします。

